

◎模試受験後には、必ず復習を!!

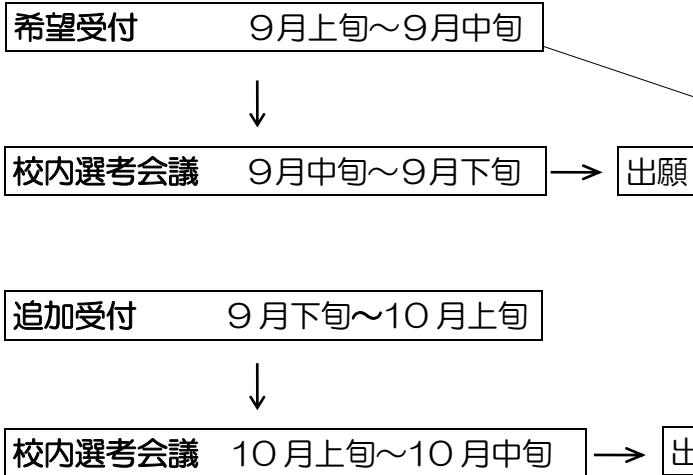
15日(土)に行われた進研記述模試の終了後の、自己採点・1回目の復習は済んでいますか。模試を受験したままにしてしまうことは論外です。自分の弱点を補い、誤った思い込みをなくすためにも復習は不可欠です。次に類題が出た時には、必ず完答できるようにきちんと復習しておきたいものです。手がつかなかったり、誤ったりしたところを放置したり、投げ出したりせずに、確実に修正していくことが大事です。試験当日、答案返却時、忘れかけた頃(例えば3か月後)といった最低3回の復習を行うことで、入試本番に向けた学力の定着がはかれるのです。

◎ 学校推薦型選抜(旧推薦入試)応募の手順(確定した日程は始業式以降に連絡予定)

一方で、学校推薦型選抜(旧推薦入試)や総合型選抜(旧AO入試)への出願を考えている人もいることと思います。以前からの指導の通り、学校推薦型選抜や総合型選抜への出願は第1希望の大学・学部が原則です。安易に選択肢とすることのないようにしてください。それを踏まえた上で学校推薦型選抜応募の手順をお知らせします。

昨年度の指定校推薦の一覧は第1学期終業式に教室掲示予定です。

○指定校推薦



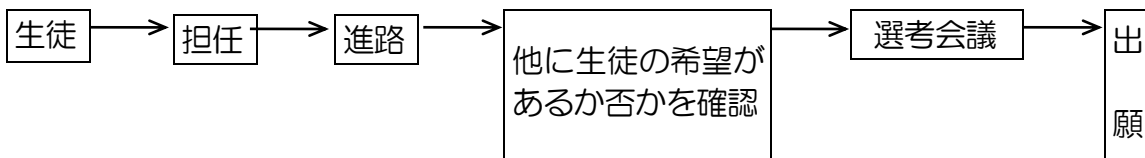
今年度の一覧は、
8月28日(月)に掲示します。

希望する生徒は『推薦申込書(志願理由書)』を担任に提出。締め切り厳守。期日を過ぎたら受け付けません。当然のことですが、出願時点で推薦条件を満たす必要があります。

校内選考にもれた場合、追加募集に希望を出すことは可能です。

○一般(公募)推薦

① 「北高から何名」と人数制限があるときは、校内選考になる場合があります。(申し込みに期限を設定)



② 人数制限がないときも担任に推薦申込書を提出します。

(申し込みに期限を設定)



●学校推薦型選抜(旧推薦入試)や総合型選抜(旧AO入試)出願を考えている場合でも、夏休み中は、一般入試対応のため基礎固めの完成とさらなる学力の定着に向けて1日最低でも10時間の勉強をする必要があります。

●一般(公募)推薦は学校で一覧表などを出しません。各自で調べることになります。

●推薦手順について2学期になると担任の先生から具体的な指示があります。聞き漏らさぬようにしましょう。

応募上の注意

- ① 推薦するかどうかの選考は、評定平均、生活態度（欠席・遅刻・早退）などを考慮して総合的に判定します。学校長が責任をもって推薦するもので、評定平均だけで決まるというわけではありません。競合者がいなくても推薦されないこともありえます。
- ② 指定校推薦に応募できるのは、第1希望の1校のみです。成績がよくても、第2希望への横すべり、いわゆる玉突き志願はできません。追加募集に志願することはできます。また、指定校推薦が不合格になった場合、一般(公募)推薦への応募は可です。
- ③ 一般公募推薦も併願できません。応募できるのは1回に1校のみで、その大学が不合格になるまで、他大学に応募できません。ただし、大学の募集要項に併願可と明記してある大学同士の場合は、同時に2校に応募できます。（※専願制と併願制を同時に出願することは出来ません）

注意：一般推薦は何校でも併願できるものではありません。推薦入試が不合格になった場合は、基本的には一般入試を受けることとなりますから、受験勉強を怠ることのないように。

注意：総合型選抜（旧AO入試）の出願もこれに準じます。

- ④ 出願後（指定校は選考会議後）の辞退・変更等は認めません。いい加減な気持ちで応募しないこと。指定校があっても第1希望でない場合は、応募しないでください。また、2学期に極端に成績が下がるようであれば、やむなく推薦を取り消すこともあります。なお、合格した場合は必ず入学手続きを行ってください。
- ⑤ 入学後の怠学・退学を決してしないこと。（先輩達の大学での成績不振により翌年以降の推薦枠をなくしてしまったり、大学から厳しい指導を受けたりしたことが過去にあります。）
- ⑥ 保護者の同意が必要です。夏休み中によく話し合っておき、自分の考えだけで申し込まないこと。特に、保護者がどんなに忙しくても必ずきちんと了解をとること。
- ⑦ この1学期に欠点をとった者は応募できません。
- ⑧ 第一志望を大切に、早く合否が決まるからといって妥協しないでください。大学のレベルにもよりますが、評定平均がB（3.5以上）程度であれば、一般入試で合格する可能性もかなり高くなります。例年20人前後しか指定校推薦には出願していません。

ただし、国公立大学や薬学部などをはじめとする一般(公募)推薦や総合型選抜(旧AO入試)は、受験のチャンスを広げる意味で、チャレンジするののも一つの方法です。また、希望の大学に総合型選抜(旧AO入試)方式があり、それにふさわしい実績や能力のある人も、積極的にチャレンジすることを勧めます。ただし、レベルの高い大学の総合型選抜(旧AO入試)は、小手先の対策ではダメで、高い資質と学力が必要です。

企業が新卒採用で重視する点

経団連が2021年に実施した『採用と大学改革への期待に関するアンケート』によると、大卒者に特に期待する能力は、課題設定・解決能力は1位にランクインしました。我々人類はコロナウイルスという困難からようやく立ち直り始めてはいますが、これからもたくさんの困難に直面し、そのたびにその問題を解決することを要求されるでしょう。また、論理的思考力は2位となっていることから、知識だけではなく、しっかりと考える力を企業が求めているようです。もちろん、これらの根底には多くの知識があることを忘れてはなりません。

